

令和6年度「全国学力・学習状況調査」

1 調査の対象・目的

「全国学力・学習状況調査」は、小学校6年生と中学校3年生を対象にして、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析するために毎年実施されています。今年度は令和6年4月18日(木)に実施されました。調査結果は、国や各自治体、学校で分析し、授業改善のために活用されます。

2 調査の内容

(1) 教科に関する調査【国語、算数・数学】

「知識・技能」を問う問題と、「思考・判断・表現力」を問う問題が出題されました。学校で学んだことが日常生活で活用できるように、実際の生活場面を想定した出題もありました。

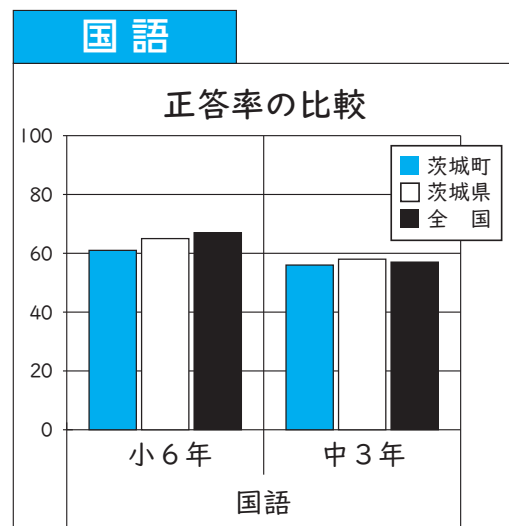
(2) 生活習慣や学習環境等に関する調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関するアンケート調査です。小学校・中学校とも、一人一台端末を用いて回答しました。



3 教科に関する調査の結果(受験者数：小学校197名 中学校214名)

茨城町は小学校・中学校とも全国平均を下回っており、特に小学校算数で全国との差が大きくなっています。また、学習の理解度に大きなばらつきがあることも分かりました。

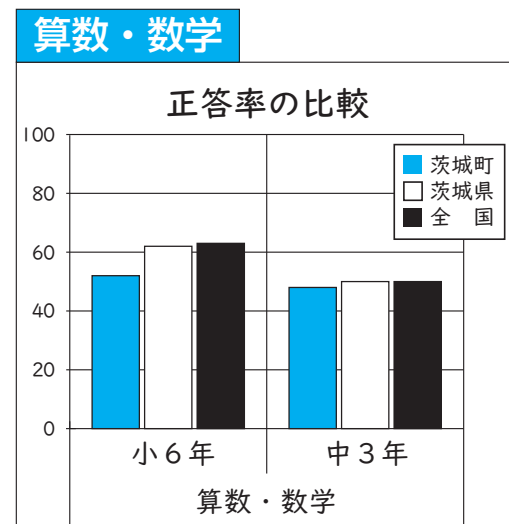


○小学校について

漢字の書き取りや熟語の意味などの「語彙力」に課題が見られました。学習した漢字は確実に書けるようにするとともに、読書活動を推進し、文中で意味の分からない言葉があったら自ら調べる活動などを行い、語彙を豊かにしていきます。

○中学校について

行書と楷書の書き方に関する設問で全国平均を上回りました。しかし、目的に応じて論理的に記述する力に課題がありました。授業で条件に沿って書く活動をさらに取り入れるとともに、自分で書いた文を読み直し、目的に照らし合わせて修正できるよう指導していきます。



○小学校について

小数の割り算や、速さを求める問題で特に正答率が低くなりました。定着が不十分だった分野の復習を確実に行うとともに、具体物を用いたり生活経験をもとに考えたりすることで、児童が実感をもって理解できるようにしていきます。

○中学校について

図形の回転移動や、データの傾向をとらえる問題で全国平均を上回りました。しかし、自分の考えを記述する問題では、無解答率が高く大きな課題となっています。ふだんの授業から問題を解く際に、ペアやグループで解き方を説明し合ってから書く活動を取り入れるなど、段階的に筋道を立てて書くことができるようにしていきます。

—茨城町の状況について— 茨城町教育委員会

課題改善に向けて

○基礎・基本の確実な定着を目指して

各校で授業改善のための研修を行うほか、学校の実態に応じて複数教員による指導や、習熟度に応じた課題学習にも取り組んでいきます。茨城町で導入しているデジタルドリルや、茨城県教育委員会から毎月提供されるCBT問題（コンピューターを使用して解く問題）や補充問題、各校で使用している教材を用いて、児童生徒が自分に必要な学習を進める時間もつくっていきます。教員も課題を出して終わりにするのではなく、児童生徒がどこまでできたのかを把握し、場合によっては下学年の学習にさかのぼって復習したり、繰り返し解いたりするように促しながら、児童生徒に基礎・基本の力を確実に付けていきます。

○考えを記述する力の習得に向けて

日頃から意識して書く活動を取り入れていきます。また、特に国語や算数・数学では、条件に沿って書く活動を積み重ねます。書いた後は児童生徒が読み返し、条件を満たしているか推敲したり、友達同士で過不足がないか確認し合ったりする活動も大切にしていきます。小学校3年生以上は、茨城県教育委員会から要約などの記述問題が定期的に提供されています。課題に継続して取り組むことで、児童生徒の書く力を鍛えていきます。

4 生活習慣や学習環境等に関する調査結果

全国平均を上回った主な質問項目

学習面では、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」という設問で肯定的回答が9割近くになりました。また、生活面では、「将来の夢や目標を持っていますか」という質問で全国平均を上回りました。

全国平均を下回った主な質問項目

学習面では、「算数・数学の勉強が好きですか」への肯定的な回答が5割となり、全国平均を下回りました。教室にいる児童生徒の約半数が算数・数学を好きではないことを認識し、分かる喜びを実感できる授業づくりにより一層努めていきます。対照的に国語が好きと回答した児童生徒は約7割おり、小学校・中学校とも全国平均を上回りました。生活面に関しては昨年に引き続き、「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という質問で全国平均を下回りました。

課題改善に向けて

茨城町教育委員会では9月から「こころの日記」というアプリを全校に導入しました。これは、児童生徒が一人一台端末を使用するときに、自分の心理状態を4種類の表情から選択し、学級担任等に知らせるものです。従来のオンライン相談窓口と併用して、児童生徒の心理状態の変化を把握し、早期の相談につなげるようにしています。今後も学校にいる職員と児童生徒との日常生活の関わりを大切に信頼関係を築いていくとともに、ICTを活用した児童生徒の実態把握・早期支援を行っていきます。

